

ツアーレポート(2010・9・19)

東京9条まつい プレ企画 五日市憲法草案 再発見ツアー 温泉付き 30人が参加しました



9月19日、JR武蔵五日市駅前にはマスコミ9条の会の仲築間さん、東京連絡会の島田さん、世田谷、葛飾、小平、そして地元の会など30人が集まった。オープニングセレモニーでは司会の華房さんが参加者を紹介、あきる野9条の会の代表・瀬沼辰正さんが挨拶、ツアーの案内人で解説者の鈴木富雄さんが紹介されて、「五日市憲法草案再発見ツアー」がスタートした。



一行は快晴の中を歩いて、まず「勸能学校跡」に向かった。



明治14年(1881)に五日市憲法草案(以下草案)を起草した千葉卓三郎は、嘉永5年(1852)宮城県白幡町(志波姫町/現栗原市)に生まれ明治

13年(1880)にこの学校に勤務する。

次は市神様。五日市が市場町として発展するのを見守り続けた自然石の神様だ。鈴木さんは、五日市は、炭、木材、黒八丈といわれる絹織物が盛んな町で、筏(いかだ)を組んで秋川から多摩川を経て東京へ運び、当時の先進文化と直結していたと話した。



当時五日市第1の資産家で15歳で学芸講談会にも加わり、民権運動を財政的にも支援した内山安兵衛の屋敷跡や卓三郎が下宿していた所を見て、五日市郷土館に向かい、草案に因む展示物や写真を見ながら説明を受けた。



郷土館には町の暮らしが展示されていたりカバの祖先といわれる化石もあった。世界で7番目の発見である。鈴木さん曰く、これだけでも自然史博物館ができるのに…。坂道を登って若者が議論した学芸講談会の会場・開光院を見学。



次は草案の記念碑。卓三郎の生まれ故郷と墓のある仙台に同じ碑を同時に建てたという。鈴木さんは204条のうち碑に刻まれている6か条を読み上げながら解説し、86条は草案の白眉とも言われていて「国帝ノ起議ヲ改竄スルノ権ヲ有ス」と天皇の提案より議会の決議を優先するとした国民主権の立場にたったものだと述べた。



昼食後一行は、会員の車に分乗し、草案が発見された深澤家跡に向かった。

町から4キロ以上はなれた山中の屋敷跡には修復された門と土蔵がある。



卓三郎とともに活躍した深澤権八は当時19歳、豪農深澤名生（なおまる）の長男で、この屋敷から勸能学校に通って1年で卒業した秀才でした。土蔵には膨大な書物と資料、他国の憲法など保管され、風呂敷に包まれた草案が発見された。



山を登った所に権八らの墓がある。墓碑は「権八・深澤氏」と英語読みで書かれている。権八は

県会議員（当時はこの地域は神奈川県）にもなるが29歳でこの世を去り、父名生も息子の後を追うように死去。民権運動の最大の援助者の死は、自由民権運動への明治政府の弾圧とあいまって、草案が蔵の中で眠り続けることになったと鈴木さんは言う。卓三郎は結核が進行し五日市から奈良橋村（現東大和市）の鎌田家に身を寄せるが、入院先の本郷・竜岡病院で31歳の生涯を終える。



五日市憲法草案が眠りから覚めるのは87年後。自由民権運動の研究をしていた東京経済大学の色川大吉教授らに発見されその存在と起草者・卓三郎が明らかにされたのだ。自由民権運動の中で起草され、現憲法と地下水脈でつながっている五日市憲法草案はすばらしいと鈴木さんは熱を込めて語った。

この後一行は当時の青春群像に思いをはせながら帰宅組みと温泉組みに別れて深沢の地を後にした。ところで温泉だが、連休とあって、瀬音の湯に向かう車は大渋滞。入浴希望の18人の中では入れたのは9人だけだった。お疲れ様でした。

みなさん。11月13日の東京9条まつり、11時30分から6階C会議室「五日市憲法草案」の部屋でお会いしましょう。また、1階の展示大ホールではブース出展をします。よろしくお願ひします。

追伸：内山安兵衛の墓には時間の関係で行かなかったが、25日に行って来た。秋川を見下ろす場所に、フランスから取り寄せたというブロンズ製の十字架が静かにたっていた。



（事務局）